

胃がん

S-1＋ドセタキセル〈切除不能・再発〉

			Day	1	8	15	21
S-1	1回40mg/m ² 内服	1日2回					
ドセタキセル	40mg/m ² 点滴静注	60分		●			
			手術不能・再発		21日ごとにくりかえす		

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

ドセタキセル 総ビリルビン > 基準値上限

投与しない

AST, ALT > 基準値上限 × 1.5

投与しない

かつ ALP > 基準値上限 × 2.5

投与しない

腎機能による減量基準

S-1 CCr(mL/min) ≥ 80
60～80
60～30
30～40未満
< 30

減量なし
必要に応じて1段階減量
1段階以上の減量投与量から開始
2段階減量がのぞましい
投与不可

胃がん

S-1＋ドセタキセル〈術後補助：StageⅢ〉

1コース目

			Day	1	8	15	21
S-1	1回40mg/m ² 内服	1日2回					

14日間

StageⅢ 術後補助化学療法

2～7コース目

			Day	1	8	15	21
S-1	1回40mg/m ² 内服	1日2回					
ドセタキセル	40mg/m ² 点滴静注	60分					

14日間

StageⅢ 術後補助化学療法

3週ごと 6コース

8コース目以降

			Day	1		28	29
S-1	1回40mg/m ² 内服	1日2回					

28日間

StageⅢ 術後補助化学療法

6週ごと 手術後1年まで

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

ドセタキセル 総ビリルビン > 基準値上限

投与しない

ASI, ALI > 基準値上限 × 1.5

投与しない

かつ ALP > 基準値上限 × 2.5

投与しない

腎機能による減量基準

S-1 CCr(mL/min) ≥ 80

減量なし

60～80

必要に応じて1段階減量

60～30

1段階以上の減量投与量から開始

30～40未満

2段階減量がのぞましい

< 30

投与不可

胃がん

ドセタキセル単独療法

			Day	1	8	15	21
ドセタキセル	60~75mg/m ² 点滴静注	1時間以上		●			
							21日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準
ドセタキセル 好中球数 < 2,000/mm³ で投与延期

副作用による減量基準
—

肝機能による減量基準		
ドセタキセル	総ビリルビン > 基準値上限	投与しない
	AST, ALT > 基準値上限 × 1.5	投与しない
	かつ ALP > 基準値上限 × 2.5	投与しない

腎機能による減量基準
—

胃がん

SOX(エスワン+オキサリプラチン)療法

		Day	1	8	15	21
オキサリプラチン	100mg/m ² 点滴静注 120分		●			
エスワン	1回 40mg/m ² 内服 1日2回					
						
			21日ごとにくりかえす			

・補助療法の場合は6か月間
制吐療法などの前投薬

アザセロン、デカドロン

投与基準

	休薬基準
好中球数	<1,000/mm ³
血小板	<50,000/mm ³
AST・ALT	>ULN × 2.5
血清クレアチニン	>ULN × 1.2
下痢、粘膜炎、口 内炎、手足症候群	≥ Grade2

〈減量時の投与量〉

	L-OHP
体表面積	
1段階減量	75mg/m ²
2段階減量	50mg/m ²

	S-1		
体表面積	BSA < 1.25m ²	1.25m ² ≤ BSA < 1.5m ²	BSA ≥ 1.5m ²
1段階減量	25mg/回	40mg/回	50mg/回
2段階減量	20mg/回	25mg/回	40mg/回

肝機能による減量基準

—

〈S-1:腎障害時の投与量変更〉

Ccr(mL/min)	60以上80未満	30以上60未満	30未満
	初回基準量 (必要に応じて1段階減量)	原則として1段階以上の減量(30 ~40未満は2段階減量が望まし	投与不可

胃がん

ニボルマブ＋SOX(エスワン＋オキサリプラチン)療法

			Day	1	8	15	21
ニボルマブ	360mg 点滴静注	30分以上		●			
オキサリプラチン	100mg/m ² 点滴静注	120分		●			
エスワン	1回 40mg/m ² 内服	1日2回					

21日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬

5-HT₃受容体拮抗剤、デキサメサゾン
必要に応じ、ポラミン 5mg 静脈内投与

投与基準

	休薬基準
好中球数	<1,000/mm ³
血小板	<50,000/mm ³
AST・ALT	>ULN × 2.5
血清クレアチニン	>ULN × 1.2
下痢、粘膜炎、口 内炎、手足症候群	≥ Grade2

〈減量時の投与量〉

	L-OHP
体表面積	
1段階減量	75mg/m ²
2段階減量	50mg/m ²

	S-1		
体表面積	BSA < 1.25m ²	1.25m ² ≤ BSA < 1.5m ²	BSA ≥ 1.5m ²
1段階減量	25mg/回	40mg/回	50mg/回
2段階減量	20mg/回	25mg/回	40mg/回

肝機能による減量基準

—

〈S-1:腎障害時の投与量変更〉

Ccr(mL/min)	60以上80未満	30以上60未満	30未満
	初回基準量 (必要に応じ1段階減量)	原則として1段階以上の減量(30 ～40未満は2段階減量が望まし	投与不可

胃がん

CAPOX(カペシタビン＋オキサリプラチン)

		Day	1	8	15	21
オキサリプラチン	130mg/m ² 点滴静注	2時間	●			
カペシタビン錠	1回1000mg/m ² 内服	1日2回				

14日間

21日ごとにくりかえす

・補助療法可
制吐療法などの前投薬

パロノセトロン、デカドロン

投与基準

好中球数	1500/mm ³ 以上
血小板	7,500/mm ³ 以上

副作用による減量基準
〈カペシタビン〉

		Grade2			
	Grade1	初回発現	2回目	3回目	4回目発現
治療期間中の処置	減量不要	Grade0～1に軽快するまで休薬			投与中止
治療再開時の投与量	減量不要	減量不要	1段階減量	段階減量	再投与不可

	Grade3			Grade4
	初回発現	2回目	3回目	初回発現
治療期間中の処置	Grade0～1に軽快するまで休薬		投与中止	投与中止あるいはGrade0～1に軽快するまで投与中断
治療再開時の投与量	1段階減量	2段階減量	再投与不可	再投与不可、あるいは2段階減量

〈減量時の投与量〉

体表面積	1.41m ² 未満	1.41m ² 以上1.51m ² 未満	1.51m ² 以上1.81m ² 未満
1段階減量	900mg	1,200mg	1200mg
2段階減量	600mg	600mg	900mg

体表面積	1.81m ² 以上2.11m ² 未満	2.11m ² 以上
1段階減量	1,500mg	1,500mg
2段階減量	900mg	1,200mg

〈オキサリプラチン〉

種類	最悪時の程度	次回投与量
前回投与後に発現した有害事象	Grade3以上	1回目発現時:100mg/m ² に減量
		2回目発現時:85mg/m ² に減量

肝機能による減量基準

腎機能による減量基準

ゼロータ

CLcr(mL/min) 30～50 75%量

胃がん

14日間

RAM+PTX(ラムシルマブ+パクリタキセル)療法

			Day	1	8	15	22
ラムシルマブ	8mg/kg 点滴静注	60分(25mg/min以下)		●		●	
パクリタキセル	80mg/m ² 点滴静注	60分以上		●	●	●	

28日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬などの前投薬
デキサメタゾン+ジフェンヒドラミン+ファモチジン

投与基準

好中球数 $\geq 1500/\mu\text{L}$

血小板数 $\geq 10\text{万}/\mu\text{L}$

T-Bil $\leq 1.5\text{mg/dL}$

Scr $\leq 2\text{mg/dL}$

AST $\leq 2 \times \text{ULN}$

副作用による減量基準

蛋白尿、血圧上昇でRAMの投与量調整

肝機能による減量基準

パクリタキセル 総ビリルビン 1.4~2.2 かつ AST・ALT 350未満 25%減量
総ビリルビン 2.2~5.5 かつ AST・ALT 350未満 50%減量
総ビリルビン 5.5を超える or AST・ALT 350以上 中止

腎機能による減量基準

—

—

肝機能以外の減量基準

通常投与量 260mg/m²

1段階減量 220mg/m²

2段階減量 180mg/m²

胃がん

weekly-PTX(パクリタキセル)療法

			Day	1	8	15	22
パクリタキセル	80mg/m ² 点滴静注	60分以上		●	●	●	

28日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬などの前投薬
デキサメタゾン+ジフェンヒドラミン+ファモチジン

投与基準

好中球数 $\geq 1500/\mu\text{L}$

血小板数 $\geq 10\text{万}/\mu\text{L}$

T-Bil $\leq 1.5\text{mg/dL}$

Scr $\leq 2\text{mg/dL}$

AST $\leq 2 \times \text{ULN}$

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

パクリタキセル	総ビリルビン 1.4~2.2 かつ AST・ALT 350未満	25%減量
	総ビリルビン 2.2~5.5 かつ AST・ALT 350未満	50%減量
	総ビリルビン 5.5を超える or AST・ALT 350以上	中止

腎機能による減量基準

—

胃がん

ニボルマブ単独療法

			Day	1	8	15
ニボルマブ	240mg 点滴静注	30分以上		●		●

14日ごとにくりかえす
PD(増悪)まで

4週ごとに480mgを投与することもできる

がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道がん 三次治療以降

制吐療法などの前投薬
ポララミン 5mg 静脈内投与

投与基準

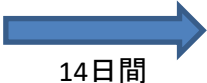
副作用による減量基準
—

肝機能による減量基準
—

腎機能による減量基準
—

胃がん

ゾルベツキシマブ/CAPOX

		Day	1	8	15
ゾルベツキシマブ	600mg/m ² (初回のみ800mg/m ²) 点滴静注		●		
オキサリプラチン	100mg/m ² 点滴静注 2時間		●		
カペシタビン錠	1回1000mg/m ² 内服 1日2回				

21日ごとにくりかえす
オキサリプラチン8サイクルまで

CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

制吐療法などの前投薬:ガイドラインに従う

用量

800mg/m²

600mg/m²

400mg/m²

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

—

腎機能による減量基準

—

胃がん

ゾルベツキシマブ/FOLFOX

		Day	1	2	..	14
ゾルベツキシマブ	400mg/m ² (初回のみ800mg/m ²)		●			
	点滴静注	2時間以上 * 下記参照				
オキサリプラチン	85mg/m ²		●			
	点滴静注	2時間				
レボホリナート	200mg/m ²		●			
	点滴静注	2時間				
フルオロウラシル	400mg/m ²		●			
	急速静注	5分				
フルオロウラシル	2,400mg /m ²					
	持続静注	46時間				

14日ごとにくりかえす
オキサリプラチン12サイクルまで

CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

制吐療法などの前投薬: ガイドラインに従う

ゾルベツキシマブ投与速度

用量	投与開始から30～60分後まで	その後
800mg/m ²	100mg/m ² /時	200～400mg/m ² /時
400mg/m ²	50mg/m ² /時	100～200mg/m ² /時

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

—

腎機能による減量基準

—

ペムブロリズマブ/CAPOX

21日ごとにくりかえす

腎機能による減量基準